

学費上昇阻止にむけて

目次

- 情勢分析(国際、国内)
- 早稲田斗争と並行しためしょく
- 学費問題へ、基本的視点
- 私立大学への政治主導権
- 学費上昇に対する聖母報告
- 文部省立
私立大学聖母資料
- 明治大学学生会中央執行委員会
- 法商政経農五短大学生会

夏期会宿 討論資料

文部部 7月30日夜、31日午前
8月2日朝
全体 8月2日夜、3日朝晩

1966年7月27日

明

勢力 分析

ハノイ、ハイフォン爆撃に象徴されるよう
に米帝国主義のエトナム侵略は、ますます
強烈化を増している。すなわち第二次世界大
戦後、勝利、敗北にかゝわらず壊滅した世界
帝国主義諸国が援助を通じて経済的支配下に
置き世界の一元的支配をほこし、米帝も欧洲別

ヨーロッパ等の旧帝国主義諸国が、米帝国主義の
マーシャル、マッカランによる援助を利用して
じつづき、急速度に復興をなしとげ欧洲に於け
るMERCの結成、さらには日米安保条約によ
り國際連盟が意図した日帝等の進出により、
相對的地位の低下をまつた、米帝の世界一元
的支配は終焉をつげ、帝王主義の対立、抗
争の時代へ突入した。米帝の大西洋共同体に
対する大歐洲統合政策によって始まった仏帝
の米帝への敗戦は、英仏のEETOの屈服否、
NATOの脱退、さらにはイングリッシュ中立化構
創をたゞさえたのエトナム戦争への介入等
で、ますます激化の方向をたどっている。

このことは、戦争後、欧洲日本急速度の
発展に伴いドルが流入し、その半は米国のド
ル充養を目的へいら、ボンド尼井と相まみあ
て、ニードルとボントの国際信用に支えられ
ていたIMF、ガットの土台と轟り動かして
いる。さらには米国及び他の諸帝国主義の
金融通商、同質的過剰生産傾向の增大など
フレーションの必然化をもたらし世界的恐慌
を持つて危機が進行している。

米帝の軍事的侵奪は、全世界的な勞
働者とその価値の非生産的破壊戦争であ
り、故にエトナムに対する米帝の侵略は、ケネディ以降、
米国経済の死活を制する戦争、自由の森の戦
争なのである。かゝるエトナム戦争に象徴
される世界資本主義の危機は、全世界的な労
働者の暴撃を伴いつつ、全面的の軍事競争と
の波浪の競争を提ひつてある。帝国主義は最強の王国＝米国に参りこすら
る対立、インフレ傾向の增大による囚虜收

戦後世界体制の米の一元的支配の崩壊的性
質は、政治的、経済的対決の内容させながらも、西欧通商交換性回復、EETO発足が逆
に資本主義世界固有のナショナリズムの厚い
壁にぶつかり、囚虜を媒介としてヨーロッパ化
への傾斜を深めていると言える。

落ちたとはいえ、イギリス、EETOを含むセ

戦後世界体制を持ち、今日世界企業と言わ
れるアメリカ独占は、ドル危機に對して、
国内的に財政支出、減税、既存設備の開発等
競争力を回復させた。对外的にはドル譲り、保護貿易と自由化の強
要、通商大法により、大々的巻き返しを計
り、一定の成果をえた。しかしドルの不守と危機は、ケネディ以降、
六五年ジョンソンの公債収支特外教書の内客
に見られるほど利子平衡率の延長、その他
多様なドル流出の規制の強化を計らざるをえ
なくなつてゐる。

自動車、鉄鋼、建設の設備投資による過剰
生産化、軍事的テコ入れの過熱化と消費物
価の上昇傾向の必然化は、ますます経済に於
ける軍事生産のシェアを増大させてゐる。
かかる政府の財政支出による債務累積、帝
国主義の血みどれた経済成長政策も米とEETO
の対立、インフレ傾向の增大による囚虜收

各帝国主義の抗争の時代

和田生みだすものとしてではなく、教育

に対する資本投下のむづ意味は、形成される

九四年以降の危機の深化の中で、単に「中

古勢力——官僚的

に活用する形で現れるべき勞

働力は、生産過程で登場する勞働者につつてのみ、

利潤を生み出すのである。單に教育の性格じ

して、体制支配の「デオロギー」の反映である。

「教育をにぎつたものが國家を支配する」といわ

れるのは、こういう教育のむづ性格に依る

のである。それ故に、単に資本の論理の学内

的展開をもつて學の問題を解明するのは不可

能である。この二つの説話は、教育に対する

一面的把握に基いている。

「学校そのものにも資本の論理が貫徹してい

る。」——この二つの説話は、教育を支配する

國々で生じてゐる、こういう意味である。

それは、全体の階級分配の重要な一環を担

つてゐる。何故なら、國家機能の本質は、労働

の本質性にあり、それは、教育のむづ「デオロ

ギー」的性質を國家イデオロギーの反映体とし

て有効だ、なうである。教育は、体制支配の

範囲の中で位置づけた争点を引きるのであり、

教育自体として、資本投下への対象となる

のである。

〔三〕学費競争の現在的意味とは

古井同性にあり、それは、教育のむづ「デオロ

ギー」的性質を國家イデオロギーの反映体とし

て有効だ、なうである。教育は、体制支配の

範囲の中で位置づけた争点を引きるのであり、

教育自体として、資本投下への対象となる

のである。

〔四〕学費競争の現在的意味とは

古井同性にあり、それは、教育のむづ「デオロ

ギー」的性質を國家イデオロギーの反映体とし

て有効だ、なうである。教育は、体制支配の

範囲の中で位置づけた争点を引きるのであり、

教育自体として、資本投下への対象となる

のである。

私立大學の政治経済学

「貨幣資本家」→(同族経営的教育資本)

「株式資本家」

一九四九年、特殊法人たる「学校法人」

私立大學校法一九四九年

〔教育資本の形成と発展〕

学生(家庭の富の収奪を納入)

〔教育資本〕→教育労働者(教職員)

「教育資本」→医療資本

「教育資本」→銀行資本

「教育サービス」からの利潤追求

「教育資本」→サード・セラフ資本

「教育資本」→不動産資本

〔教育資本の成長(去勢)〕

一九一八年「大學生令」

「私立大學は財團法人たることを要す」

(単科大学で五〇万円、一部増すことに)

マルクス「資本論」第一巻、五四四ページ

M.L.研究初版

「資本家のために剰余価値を生産する労働者、

又は資本の自己増殖に役立つ労働者のみが生

産的である。物質的生産の領域外なら一例を

あげてもよければ、學校教師は、児童の頭脳を

加工するばかりでなく企業家の致富のために

自ら苦役するばあいに生産的労働者である。

企業家がその資本を賃詰五場でなく教育五

場に投じたということによつては、肉體は少

しも変わらない。」

剩余価値学説史第一巻、三七四ページ

M.L.研究初版

「たゞえば、教育施設のばあいには、教師たち

は、教育施設の企業家にとつぱなんばる貨

物者である。」

「効率をあらうるしましたそうした教育五場が

イギリスにたくさん存在しうる。こうした教

師たちは、出稼たれたりしては、出稼的労

働者で日本へはおどる。自分の企業家にた

しては、「生産的労働者である。」その企業家は

自分の資本を教師たちの労働能力と交換し

この過程とおして金も受け取るのだ。



No.2 全面的再編が図られこいる。(詳しく述べ
る中)

政府文部省の大學への攻撃の性格は、一

勤労時間の成長

一九五二、一五九年度に行われた調査によれば、前期のように多くの大学では、教育の多くがノルマは私立大学では、四一六時間以下はほとんどなく、八時間以上が大部分であり、四一六時間におよぶものなくない。

勤労時間は、組目のあるところでさえ「一日」の時間、「時（昼）」、「五時一一時（夜）」である。がほとんどである。

勤労時間は、組目のあるところでさえ「一日」の時間、「時（昼）」、「五時一一時（夜）」である。がほとんどである。

① 国立大学との比較

学生五〇〇名以上のマスプロ講義の占める比率は第二五表であるが、これによると、私立の授業の内では「講義」ではなく「講演」である感である。

負担と弱化

公立大学に比べて、私立大学教員の賃金は余りにも低いが、反対に勤労量では、後者は前者の二〇倍である。

② 一年との比較

学生五〇〇名以上のマスプロ講義の占める比率は第二五表であるが、これによると、私立の授業の内では「講義」ではなく「講演」である感である。

(オニ七参照)

である。看護婦の仕事を准看護婦に准看護師の仕事を准看護者に配置する、なしくずしのレギュラーワンが行なわれている。このように「大学附属病院」の权威にからめて内に向ってはおどろくべき危機感、外に対しては医療標準の低化が進んでいるのである。

付属事業の拡大 大學附属出版社の刊行する書物以外を教科書に使用してはならぬという「学長令」を出し

そのことによって「出版資本」としての利潤を増大させると共に教科書を通じて思想統制を進める。私立大学全体の付属事業、収益事業の收入は63年度の文部省の統計によつても、

一三一億円、私立学校の十三、二八を占めているが多くの場所、生産に於いては学生、教務、黒板粉、販売に於いては一枚あたり数万におよぶ生徒に依存しているだけに、これらはもつぱり建設費と賃貸料(主に零合)などに回される。

私立大学に於ける資本主義的合理化こそ、教育研究の破壊の最大の根源の一つである。

土地代

私立大学の資産全体の中で、固定資産の占める割合は極めて大きく、八九、四九を占め、しかもその蓄積率は驚くべきものがあり、五〇年と50年の資産について比較すれば、図のように、この15年間に固定資産は15倍になつてゐる。この15年間に固定資産は15倍になつてゐる。この15年間に固定資産は15倍になつてゐる。

図書代

「日本古文書計画」は如意度的に実施される

③ 教育資本の形成

日本に代表的に見られるようだ、大學教育本による高級、短大の併設、吸收系列によ

④ 教育資本の形成

「日本古文書計画」は如意度的に実施される

⑤ 教育資本の形成

公立大学に於ける大学自治の破壊が問題にされるが、より正確には多くの私立大学ではもともと大学自治はなかったと云つても過言ではない。政治家が大学の経営にタッチしたのが、大學の要大な財政と教育資金に流用出来た事の他に、他の公私、公私、公、PTAなどを通じて、大学の運営に影響を与えるものはない。問題は教育資本も例外ではないところの、全ての資本主義的形態に於ける、

⑥ 教育資本の形成

つまり私立病院は、医学の教育と研究の

為でなく利潤追求の爲の病院、庶民の倫の病院でなく一部特权階級のそれになつてゐる

私立大学に於ける基本的矛盾は、資本と勞働の矛盾であり、又それに規定されて資本と労働の矛盾であり、この矛盾が

「大学附属病院」の权威にからめて内に向ってはおどろくべき危機感、外に対しては医療

標準の低化が進んでいるのである。

付属事業の拡大 大學附属出版社の刊行する書物以外を教科書に使用してはならぬという「学長令」を出し

そのことによって「出版資本」としての利潤を増大させると共に教科書を通じて思想統制を進める。私立大学全体の付属事業、収益事業の收入は63年度の文部省の統計によつても、

一三一億円、私立学校の十三、二八を占めているが多くの場所、生産に於いては学生、教務、黒板粉、販売に於いては一枚あたり数万におよぶ生徒に依存しているだけに、これらはもつぱり建設費と賃貸料(主に零合)などに回される。

① 教育資本の形成

私立大学に於ける大学自治の破壊が問題にされるが、より正確には多くの私立大学ではもともと大学自治はなかったと云つても過言ではない。問題は教育資本も例外ではない。

② 教育資本の形成

「日本古文書計画」は如意度的に実施される

③ 教育資本の形成

日本に代表的に見られるようだ、大學教育本による高級、短大の併設、吸收系列によ

④ 教育資本の形成

「日本古文書計画」は如意度的に実施される

⑤ 教育資本の形成

公立大学に於ける大学自治の破壊が問題にされるが、より正確には多くの私立大学ではもともと大学自治はなかったと云つても過言ではない。問題は教育資本も例外ではない。

⑥ 教育資本の形成

つまり私立病院は、医学の教育と研究の

為でなく利潤追求の爲の病院、庶民の倫の病

院でなく一部特权階級のそれになつてゐる

⑦ 教育資本の形成

公立大学に於ける大学自治の破壊が問題にされるが、より正確には多くの私立大学ではもともと大学自治はなかったと云つても過言ではない。問題は教育資本も例外ではない。

⑧ 教育資本の形成

「日本古文書計画」は如意度的に実施される

⑨ 教育資本の形成

日本に代表的に見られるようだ、大學教育本による高級、短大の併設、吸收系列によ

⑩ 教育資本の形成

「日本古文書計画」は如意度的に実施される

⑪ 教育資本の形成

公立大学に於ける大学自治の破壊が問題にされるが、より正確には多くの私立大学ではもともと大学自治はなかったと云つても過言ではない。問題は教育資本も例外ではない。

⑫ 教育資本の形成

「日本古文書計画」は如意度的に実施される

⑬ 教育資本の形成

公立大学に於ける大学自治の破壊が問題にされるが、より正確には多くの私立大学ではもともと大学自治はなかったと云つても過言ではない。問題は教育資本も例外ではない。

⑭ 教育資本の形成

「日本古文書計画」は如意度的に実施される

⑮ 教育資本の形成

公立大学に於ける大学自治の破壊が問題にされるが、より正確には多くの私立大学ではもともと大学自治はなかったと云つても過言ではない。問題は教育資本も例外ではない。

⑯ 教育資本の形成

「日本古文書計画」は如意度的に実施される

⑰ 教育資本の形成

公立大学に於ける大学自治の破壊が問題にされるが、より正確には多くの私立大学ではもともと大学自治はなかったと云つても過言ではない。問題は教育資本も例外ではない。

⑱ 教育資本の形成

「日本古文書計画」は如意度的に実施される

⑲ 教育資本の形成

公立大学に於ける大学自治の破壊が問題にされるが、より正確には多くの私立大学ではもともと大学自治はなかったと云つても過言ではない。問題は教育資本も例外ではない。

⑳ 教育資本の形成

「日本古文書計画」は如意度的に実施される

㉑ 教育資本の形成

公立大学に於ける大学自治の破壊が問題にされるが、より正確には多くの私立大学ではもともと大学自治はなかったと云つても過言ではない。問題は教育資本も例外ではない。

㉒ 教育資本の形成

「日本古文書計画」は如意度的に実施される

㉓ 教育資本の形成

公立大学に於ける大学自治の破壊が問題にされるが、より正確には多くの私立大学ではもともと大学自治はなかったと云つても過言ではない。問題は教育資本も例外ではない。

㉔ 教育資本の形成

「日本古文書計画」は如意度的に実施される

㉕ 教育資本の形成

公立大学に於ける大学自治の破壊が問題にされるが、より正確には多くの私立大学ではもともと大学自治はなかったと云つても過言ではない。問題は教育資本も例外ではない。

㉖ 教育資本の形成

「日本古文書計画」は如意度的に実施される

㉗ 教育資本の形成

公立大学に於ける大学自治の破壊が問題にされるが、より正確には多くの私立大学ではもともと大学自治はなかったと云つても過言ではない。問題は教育資本も例外ではない。